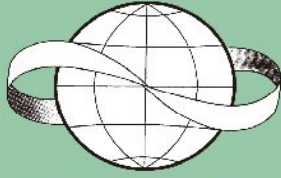


ヴェーナス通信



Venous (静脈) Venus (護美の女神)

第55号

(新年号)

商標登録第4882482号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町1-16-18
TEL: 042-395-9788
FAX: 042-395-9787

謹賀新年

理事長 紺野武郎

年頭に当りご挨拶申し上げます。昨年、世界の政治経済が激変し、我が国を取り巻く環境も、難問山積の越年となりました。暮れの総選挙では、自民党が圧勝し、安倍首相の再登場となりましたが、内外情勢を見極めて、堅実な力強い舵取りを願うばかりです。ただ、各党の公約から環境や資源の字が消えたことは残念でした。ところで、今年の再生資源業界は、真の3R推進運動はもとより、次の二点は、なんとしても解決しなければならぬ課題であります。一つは中国との円滑な貿易関係の維持。二つ目は長年の業界の汚点となつている「古紙持ち去り業者」の完全な撲滅です。

再生資源の中国輸出問題

日中関係の悪化によつて、古紙や廃プラスチックなどの輸出に影響が出てくると、深刻な流通滞貨が起こることが懸念されます。業界としては、中国以外の東南アジア諸国に対して、新たな市場開拓に必死の努力をしていますが、あまりにも大きな中国市場を埋め合わせるのは至難の業です。中国には、昨年も四百万トン近い

古紙を輸出しており、全輸出量の八〇%弱に相当します。

古紙類は、湿気や太陽光線などで劣化し易くて長期保存が難しく、日本国内の在庫能力も最大で六〇万トン程度が限界です。

中国への輸出が一五%減少すれば満タンになってしまうのです。最近、我国の印刷用紙等の輸入量が増加し、国内の紙生産量が減少しています。先ず余剰古紙で国内向け再生紙の消費量を増やす制度の検討も必要ではないと思ひます。

(六頁のチャイナシンポジウムの記事を是非ご一読下さい)

なお、現在日本の再生資源類が、アジア諸国に順調に輸出できていく最大の理由は、地理的な有利さもありますが、何と言つても品質が保証されていることです。

市民の皆さんが分別基準を守つて出して下さること、我々回収事業者のプロの目と手が加わつて成しえる品質で、ごみ感覚で回収してしまえば、「ジャパンブランド」にはならないのです。

リサイクルを円滑に推進するためにも分別の徹底を切望します。

「古紙持ち去り業者」の撲滅

行政回収が始まった一〇数年前から出沒しだした持ち去り業者は、大半が組織化された窃盗団のよ

うな者で、元々地元でリサイクル事業に貢献してきた業者でありません。さらに遠方から越境してくる車輛が多く、交通違反など社会秩序を乱すことも甚だしく、教育上も環境面からも全国規模で大問題になっていきます。

被害の方も、少なく見積もつても都内だけで、年間一五億円といわれ、市民の財産が横取りされていることになります。

昨年末に古紙組合は、悪質な問屋を除名処分いたしました。もちろん除名された問屋から古紙を買い取る商社や製紙メーカーがあれば、古紙業界は絶対許しません。この問屋と取引している業者も許しません。こうして彼らの流通を断つことによつて従来の正当な回収ルート回復することになります。

行政回収や集団回収の委託を受けている業者や資源回収を生業としている業者に、市民が容易に識別できるステッカーを貼つてもらふ運動も今年から実施いたします。(一〇頁参照)

全自治体にも「古紙持ち去り禁止条例」の早急な施行をお願いいたします。今年こそ官民一体となつて古紙持ち去り業者を完全撲滅することを誓います。

リサイクル適性 (A)

バンコクリサイクル

事情視察会

十二月五日、社団法人東京都リサイクル事業協会のタイ国バンコク研修に参加した。十二月初旬のバンコクは気温三〇度前後のとても気持ちの良い天候で、バンコク滞在中は快適に過ごすことができた。到着翌日の六日に今回の研修先であるバンコク市庁と、再生資源会社ワンパニー社を訪問した。

バンコク都庁訪問 六日(木)

登録人口五七〇万人だが、実際は九〇〇万人ほどいるとのことだった。バンコクは特別行政区でバンコク都とも呼ばれる。英語表示での略称BMAとも呼ばれ五〇区域に区割りされており、BMAの環境局が廃棄物の全体を管理している。

我々を迎えてくれたのは、チーフのワライヤさん(女性)とKRIENTH POLDHANA RATH環境部長、スタッフ三人であった。JTB現地ガイドであるジャンさんの通訳で、最初に部長から廃棄物処理の取組みの説明が

あった。一日、八七〇〇トンを五〇エリアから収集しているが、ゴミには良いものも悪い物もある。ルールは経済と文化に影響されるが、リサイクルは当国なりに行っている。BMAでは収集したゴミを中継施設に運び、民間の埋立処分場に委託処分している。BMAでも発生資源物は売却処理しているが、埋立処分場でも分別している人達がいる。現在、東京都と協力して焼却施設を作っている。今後の課題としてリサイクルルールがまだ決まっていないので決めていきたいとの事だった。又、部長は五回訪日したそうで、東京都とは懇意にしていると話された。チーフの説明によると、モノレールや地下鉄が出来、輸送手段が広がってくると地方から入って来る人達が増えるので当然ゴミも増える。九〇%は埋立なので、三Rを主体に埋立を少なくしたい。リデュースとして紙などの発生抑制をTVなどで宣伝している。リユースは作品コンテストなどがあり、ビジネスにも繋がっている。リサイク

ルは、四三五の学校で昼食の弁当からできる生ごみをリサイクルしている。勉強の題材でもあり、家庭が二〇〇軒ごとに集まって生ごみリサイクルの勉強をしている。五〇区の中にある病院でも勉強している。寺院では寄進された物をリサイクルして、売却益をだしている。最終的には、家庭で分別するのが目標であり、ルールが今はないが作っていくと話された。短い時間ではあったが、心あたたまる担当者の対応と歓迎に御礼を申し上げバンコク市庁を後にした。

ワンパニー社

サムトプラガー県に有り、稼働八年経つ。二〇〇〇坪ぐらいの敷地でウエス以外のほとんどの再生資源を取り扱う。アメリカの再生資源業と似ており、表の看板にビン、カン、鉄、プラスチック、ペットボトルの買い入れ値段が表示されていた(古紙一六円、鉄二三円、ペットボトル四〇円とかなり高価で買い取っている)。対応して戴いたのはItthikon Sri

chanban デイレクターで、キツサニーニ県にオフィスが有り創業四〇年経つ。ドバイにも支店があるとのこと。木や水が少なくなっているもので、リサイクルは必要であり、毎日ゴミが出るのでとても良いビジネスである。BMAよりサポートされている。サービースとして学校、病院、オフィスなどにゴミの分別方法を教えている。説明終了後、工場内を見学した。一般市民の持込みが多い時には一日五〇トンとのことで、見学している時にもペットボトルを積んだタクシーが来ていた。五〇〇kg秤位だが数量が大きくデジタル表示されるので評判が良いらしい。看板通りの再生資源が種類別に山積みされている。プレス機が一台あり、ペットボトル、紙、アルミ缶をプレスしていた。まるで、輸出入も行う大きな再生資源の何でも屋の様である。約一時間位の見学であったが、とても有意義であった。

今回の研修では、あらためてタイ国の躍動感と人々の優しさ、物を大事にする姿に感銘を受けた。参加させていただき、有り難う御座いました。(小畑、津田、吉浦)

バンコク1日目

バンコク2日目



BMA庁舎



ワンパニー社ヤード



買い入れ値段表示板



持ち込まれたアルミ缶



持ち込まれた段ボール



持ち込まれたアルミ缶の受け入れ

紺野理事長の春の叙勲（旭日小綬章） 受章祝賀会が盛大に開催される！

去る平成二十四年四月二十九日、当組合の紺野理事長が、永年にわたって再生資源業界の発展に貢献した功績により、春の叙勲（旭日小綬章）を受章したことは、当組合機関紙『ヴィーナス通信（第五三号）』で紹介した。

しかるに、この度の紺野理事長の叙勲の荣誉をお祝いし、その功績を称えるため、平成二十四年九月二十九日（土）、東京・港区のグランドプリンスホテル新高輪・飛天の間にて、「叙勲受章祝賀会」が盛大に開催された。



発起人の皆様と共に

この祝賀会は、紺野理事長が日本再生資源事業協同組合連合会（日資連）の前会長としての功績が認められて受章したことにより、同組合連合会の上岡克己会長が発起人代表となり、参与や、副会長九名を中心に、社団法人東京都リサイクル事業協会、東京都資源回収事業協同組合、当組合が発起人として参集し、開催の運びとなったものである。

当日は、一般社団法人江戸消防記念会各区有志による木遣りの先導の下、叙勲受章者・紺野理事長夫妻が入場。第一部（式典の部）は、吉浦高志祝賀会実行委員長の開会の辞で始まった。発起人代表・上岡克己日資連会長が「紺野武郎氏は、リサイクル事業、再生資源事業で社会的貢献を果たし、旭日小綬章を受章された。旭日小綬章は、昔の勲四等に該当し、この荣誉は本人のみならず、リサイクルに関連する大勢の仲間の大きな拠り所であり、励みになる。われわれには、全国二六〇〇社の仲

間がいるが、資源循環型社会形成に向け邁進したい。」（要旨）と挨拶し、叙勲受章者の経歴の紹介、平沼起夫衆議院議員（初代・二代経済産業大臣）、大島章宏衆議院議員（十三代経済産業大臣）、経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課・渡邊厚夫課長、東京都産業労働局・中西充局長、全国製紙原料商工組合連合会・栗原正雄理事長、吉野石膏株式会社、高砂製紙株式会社・須藤永一郎代表取締役社長のご来賓祝辞、上岡克己日資連会長による記念品の贈呈、お孫さん達による花束の贈呈、紺野理事長による謝辞が行われた。



発起人挨拶をされる
日資連・上岡会長

続く第二部（祝宴の部）は、日資連の太田原秀義顧問（株式会社資源新報社・代表取締役社長）の乾杯の発声で始まり、加藤公一前衆議院議員（民主党）、秋元司衆議院

議員（自由民主党）、木原誠二衆議院議員（自由民主党）、内田茂自由民主党東京都支部連合会幹事長（東リ協会特別顧問・東資協顧問）、古賀俊昭東京都議会議員（自由民主党、東リ協会顧問）、小磯明東京都議会議員（自由民主党、東リ協会顧問・東資協顧問）、山口拓東京都議会議員（自由民主党、東リ協会顧問）、東村山市・渡部尚市長、常総市・高杉徹市長、関東製紙原料直納商工組合・大久保信隆理事長（役職はいずれも平成二五年一月現在）の心温まる祝辞が続いた。

祝電披露の後、歓談・アトラクション（神田獅子保存会によるお囃子と獅子舞の上演）を挟んで、（社）東リ協会・上田雄健会長が「このように多数の方々が登場しているお祝いの会は、四七年間の業界にお世話になっているが初めて。これも紺野氏の功績、それ以上に清廉潔白なお人柄の賜物だ。私も発起人に名前を連ねているが、実際には実行委員の皆さんがこのような盛大な会を催していただいた。数々の祝辞、それにもまして紺野氏の謝辞は素晴らしい。本人の言葉で自身の理念、これからの業界の在り方を全て話された。更に、未だに奥様に恋患いをしていると言えることは素晴らしい。」

大変な業界環境の中、また多忙なところ、全国から多数ご来賓のご臨席を賜り感謝申し上げます。」(要旨)と御礼の言葉を述べ、日資連・谷中勝典参事による祝い締め、同・山原丈之副会長による閉会の辞をもって、祝賀会は無事滞りなく終了した。



お礼の挨拶をされる
東リ協会・上田会長

受章者 (紺野理事長)

謝辞

「この度の受章は、全国でリサイクル事業に励んでいる大勢の皆さまと共にいただいたものと肝に銘じている。また、日資連はじめ業界の活動が循環型社会に貢献していることを認めていただいたものとして有難く頂戴した。

この業界に世話になって、四五

年近くになるが、同僚と三人でこれからはリサイクルが大切な仕事になると思い、全く畑違いの業界に挑戦することになった。無知で何も失うものがないことは、案外良い結果が出るとそのとき悟った。多くの恩人・友人に支えられ、特に地元の回収業界の皆さんには、商売の一から裏技まで教えていただいた。この業界は歴史の長い、奥の深い仕事だとその時に知らされた。まだ脱サラという言葉もない時代で、いわれもない中傷も受けたが、新聞に『資源リサイクルは日本国民全員の義務』と投稿。それを見たNHKの番組が取材にきて、全国放送で『いま何故リサイクルなのか』が放映され、ようやく風評も消えた。

昭和五七年に業界の理事に就任させていただき、以来三〇年近く組合活動に従事した。最初の一〇数年から二〇年は、再生資源の余剰化対策に走り回る毎日。業界は内需産業で、当時は輸出もなく鎖国状態だった。「余り物」に価値なしで価格が暴落し、特にバブル経済崩壊時には、多くの同志が転廃業に追い込まれた大変厳しい時代だった。

しかし、新世紀に入り輸出、国内の利用率も拡大した。この理由

は、多くの「余り物」をごみにしないで回収されていた結果としてできたこと。逆有償回収や行政に頭を下げて支援していただくとか、大変な思いをして回収し資源化を続けた、われわれ業界の汗と涙の結果が、今の大きな飛躍に繋がったと思う。

回収産業は、静脈産業の毛細管のようなもので、それが全国に張り巡らされているのは他国にはなく、緻密な、そして非常に高度なリサイクルシステムがこの国に出来た所以でもないかと自負している。

そのような組織を日資連が確立しようとして、あの世紀末の大変な時期を乗り越えてきた有志達が奮闘し、リサイクル化証明書や再生資源回収事業者認定制度などを作った。業界を発展させてくれた。その一場面と一緒に汗を流すことが出来たことを感謝している。先輩方の薫陶をいただき、何とか今日に至ることが出来た。幸い元氣だけが取り柄で、大きな病気はしたこともない。患ったことと言えば、パートナーの純子さんに恋患いをしたことぐらい。これはかなり重症で、今も持病になっている。

大変厳しい時代が到来し、今後は世界規模のバブル崩壊になるの

かわからないが、資源物だけはこれからはますます貴重な地球の宝物で、それを回収する権利・義務をわれわれは背負っている。

幸い多くの若者達がこの業界に誇りを持って集い、市民と共に日本の3R産業を進めていこうと頑張っている。今後は世界に、日本のシステムを広めていってくださると確信している。私も元氣なうちに共に頑張っていきたいと思っている。本日は、皆さま方の温かいお心を賜り、感激の時をいただき感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻、そして、何よりも次の若い世代に対して温かい支援を賜るようお願い申し上げます。」

(一部略)



紺野理事長夫妻

(柿崎)

「チャイナシンポジウム」

日本再生資源事業協同組合連合会主催の当催しは株式会社資源新報社と全国製紙原料商工組合連合会の後援で、昨年一二月四日・科学技術館で開催された。聴衆は約二〇〇名で、中国の現状と日中関係の今後を知る好機となった。

一部基調講演

伊藤忠中国総合研究所・古屋明氏の「どうなる中国」

氏は、多年にわたる中国駐在の経歴があり対中ビジネスを実践している立場からの現状分析を聞くことができた。

先ず《第一人回共産党大会》について、習近平・李克強など七名のリーダーが選出されたが、うち五名が高齢者だ。五年後には

定年となり入れ替わるだろうが、今の中国は老獪でなければ改革できないところが多い。

今後中国は、所得格差・官僚腐敗・環境破壊・産業構造の転換内陸部の振興・所得分配制度・社会保障制度などの改革に取り組まなければならない。

習近平は、すでに党と軍を統括し、来年には国家主席に任ぜられて三権を把握することになる。

旧来の支配体制にメスを入れて既得権益を打破し、改革できるかが鍵となる。今後十年間の安定を望むが、さらに強い自己主張と膨張を続けることになれば、これまで以上に国家国民がグリード（強欲）にエゴになるのではと懸念される。

次に《尖閣問題》について、これ

はかなり以前から仕組まれたもので最終的には東シナ海の内海化を目指している。地下資源だけではなく水産資源の確保さらには海洋強国になって太平洋の東側を支配したい考えでいる。対日政策もさらに厳しくなるだろう。通関の遅れ、官需から日本製品の締め出し、国際社会を巻き込んだ情報戦など。

最後に《経済の現状》について、

世界経済の減速で、外需頼みの中国経済成長率は、七%半ばまで下落している。輸出拡大政策やインフラなどの公共投資型成長モデルが終焉し、今後は個人消費主導の成長に転換できるかどうかか疑問だ。一般国民への利益分配が遅れて、社会保障制度が完備していない。高齢化社会となり労働人口も減少傾向となった。新体制が掲げる二〇二〇年GDPと国民収入の倍増計

画はおろか、持続可能な安定した成長は困難になるだろう。中国が魅力的な市場だというのが今まで備えていた魅力が薄れてきた。リスクを先行して考える企業人の見方かもしれないが、他の日本の企業も中国を見る目が変わってきていて、脱中国の動きが活発化している。

二部パネルディスカッション

㈱アジア通信社代表 徐 静波

龍谷大学教授 西倉一喜

㈱鉄リサイクリングリサーチ代表取締役社長 林 誠一

㈱ジェーオーピー会長 早速明生

スズトクHD㈱CEO 鈴木孝雄

の各氏と基調講演者の古屋明氏がパネリストとして登壇。

㈱資源新報社論説委員の小松崇明氏のコーディネートで活発な議論となった。(以下、発言要旨を各氏ごとにまとめて記載。)

①徐氏：中国新指導部は、全員が地方で苦勞しながらも高学历で、世界に出て見識を身につけた最高のメンバーだ。先ずは社会的諸問題の制度改革実行に期待。

中国は、海岸部から内陸部に入るに従って、日本の平成・昭和・大正・明治の形態を見ることが出来る。そこには、一億人の金

持ちと八億人の貧しい農民がいる。未開の八億の民が今後の内需拡大に繋がり、二〇二〇年国民の所得倍増計画も実施可能だ。中国人は消費欲旺盛だから、これからも必ず持続的に発展する。尖閣問題は強力な海洋国家を目指すとして新政権が強調している。日本がある程度譲歩しない限り解決は難しいと思う。

②西倉氏：中国の新体制には期待しない。経済と政治体制が違

いすぎるし、改革できない古い世代の指導者が出てきた。老獪なだけにまた古い体制に戻るかも知れない。

中国は発展するポテンシャルは存在するが、未開の内陸部に経済と富を廻すシステムが無い。金持は益々金持になり海外に目をむけ、貧乏人はさらに貧乏になる。GDPや所得の倍増計画も達成できないと思う。

③林氏：尖閣問題は十三億人の資源をいかに確保するかが背景にあり、簡単には妥協しない。

中国は、転炉が九割で電炉が一部は、中国国内の銑鉄価格との競争になる。日本から中国への輸出货量は、今年は二四〇万トン程度で推移、今後は価格次第。

日本の電炉の生産能力は四千万トンあるが、需要は三千万トン、建設事業の落込みで電炉メーカーも淘汰されるだろう。

④早速氏：中国の日本からの古紙輸入量は四百万トン前後だが、この数量は今後もあまり変わらないと思う。地理的に有利で品質も保証される。当然これからは他のアジア諸国にも販路が拡大すると思う。

しかし、日本国内の製紙能力は過剰で七〇〜七五%の操業になつてゐるため、古い設備の廃棄や合併なども進んでゐる。今後古紙業界の統合も進むのでは。

⑤鈴木氏：世界に完璧な国家など存在しない。特に長期にわたる独裁体制は必ず腐敗する。同じ権力のもとでの改革も不可能だ。経済は、必要としている所に物が流れる原理で、中国市場を案ずるよりアジア全体を視野に、必要としているところに供給すれば良い。ただ中国は、政治の問題を経済で仕返しをしてくる。強くなれば何でもありの国にならないよう新しい指導者に望む。

今、基本的にはアジアの時代だ。日中韓はじめアジアが仲良くなることを欧米は一番恐れている。

アジアはお互いに信頼して助け合つてゆかなければならない。会社経営については、その大小に係わらず、時節の変化に合わせて、自らを変革できるものだけが生き残る。

以上、会場での発言のみを要約したが、中国を熟知した各界のオーソリテイが一堂に会してのディスカッションは痛快だった。なおテキストには、各氏が予めヒアリングに応じた貴重な意見も多数記載されている。小松氏の絶妙な司会進行と的確なコメントにも敬服した。

(紺野)

**東多摩再資協 第4回
資源回収車両運転者
安全講習会開催**

十一月十六日(金)、東村山市民センターに於いて、資源回収車両運転者の安全講習会を開催した。

参加者一〇〇名が参加して行われた講習会は、はじめに業務を行う上での組合の基本理念である安全・行動宣言を全員で唱和、続いて来賓の東村山市資源循環部ごみ減量推進課課長 榎本文洋氏が挨拶

拶された。役所には一日、百通ほどの電話があり、それに応じて対応をしていくということなので、回収業務を行う上でも、市民の立場を配慮した回収業務を行つてほしいとの事だった。

続いて紺野理事長から参加者全員が意義のある講習会になるようにとの挨拶の後、講習会資料の中で業務品質向上と安全管理の三〇項目のチェックシートが配られており、一項目ずつ説明しながらチェックして、三〇項目のチェックに対してはまだ出来ない項目があれば、早速、明日から心がけるようにと指示があった。

そして今回の本題である安全運転に関する講習を、講師として東村山警察署 交通課長代理 吉越守氏を招き、受けることとなった。



東村山市 ごみ減量推進課
榎本文洋課長



東村山警察署 交通課
吉越守課長代理

吉越氏の話では高齢者の交通事故が多く発生しており、とくに交差点や曲がり角付近を通行するときは、歩行者や自転車がいないか自分の目やミラーでしっかり確認してくださいということだった。

次に事故の様相を映したDVDを見たが、やはり交差点や曲がり角、車両の陰などから、車やバイク、自転車などが急に飛び出している事故が多く起きており、DVDを見た後は、車の運転が怖くなるほどだった。

事故を防ぐには交差点や曲がり角、死角からの飛び出しがあるかもしれないとことで、そういったことがあっても大丈夫のような、ゆとりある運転を心掛けること、また自分の運転への過信も禁物と痛感し、これからの回収業務を行って行きたい。

(小畑)

高松・リサイクル工場視察

昨年十一月三十日、高松市郊外にある二社のリサイクル工場を見学した。

まず、高松市の隣の三木町にある、株式会社山城 四国リサイクルプラザ・ウエス工房を同社小出一夫営業部長の案内で見学した。

ここには月平均八十トンの古着が持ち込まれ、ベルトコンベアに流しながら十三人で約百二十点に仕分けることが説明された。また、持ち込まれた古着の内、四割が中古衣料として出荷、二割が工業用ウエスに加工、残りの四割が廃棄物になるとのことである。

中古衣料の大部分はシンガポール・香港・マレーシアへ輸出され、残りは自社運営のリサイクルショップで販売される。工業用ウエスはすべて綿素材である。素材そのものは十種類程度だが、ウエス商品として色や厚さ等で五十種類くらいまで分けられる。その見極めには最低十年の経験が必要だという。そして加工で最も重要なのは裁断で、結果次第で品質が大きく左右されるとのことだ。なお、裁断作業は身体に障がいを持たれる方だけで担当されていたが、その

手さばきは見事なものだった。近年工業用ウエスの需要が減少する厳しい環境の中で、古着リサイクルに尽力される皆様方を拝見し、頭の下がる思いがした。



次に高松市郊外にある、四国コカ・コーラボトリング株式会社グループの株式会社リソーシズ国分

寺工場を同社営業企画部・多田光昇主任の案内で見学した。ここでは高松市で収集されたびん・缶・ペットボトル・廃プラスチックの委託選別と、四国中から収集されたコカ・コーラ製品のびん・缶・ペットボトルを選別している。



まず、びん・缶・ペットボトル処理を行う第一工場を見学した。ここではびん・缶・ペットボトルをベルトコンベアにのせて、スチール缶を磁選機で分けた後、手作業でペットボトルを取り除き、アルミ缶を選別機にかけ、残ったびんをホッパーへ入れていた。スチール缶はプレスされ製鉄原料としてリサイクルに、アルミ缶とペットボトルもプレスされ、同社のそれぞれ別工場で加工される。びんは、ホッパーに入った後、手作業

で色ごとに分けられ専門業者に引き取られると説明を受けた。次に、廃プラスチック処理を行う第二工場を見学した。回収されたものをストックヤードに貯留し、バケットコンベアで破袋機にかけ、手作業で異物を除去し、圧縮・梱包する。なお、品質は最高ランクのトリプルAであり、今年度、広島県の業者がこれを高く評価して落札したことを説明された。



最後に、ご多忙の中で工場内を案内していただきました、小出様、多田様をはじめ両社の社員の皆様にご深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(豊岡)

各市リサイクルフェアに参加

今年の秋も各市で開催されたリサイクルイベントに参加してまいりました。

九月八日(土) 小平市エコフェスティバル、一〇月二一日(日) 東村山市リサイクルフェアでは、春に引き続いて、再生紙製品に重大な影響を及ぼす禁忌品(アイロンプリント紙・感熱発泡紙・臭い付きの紙)と古紙持ち去り問題についてのアンケート調査を行いました。

春にアンケートを実施した清瀬市では、一〇月二一日(日)の市民祭りにてトレットペーパーブーメランの有料配布を、西東京市では一月一〇日(日)の市民祭りにて、初めての試みとなる牛乳パックとトレットペーパーの交換を実施しました。

原料ベースでいうと、牛乳パック六枚でトレットペーパーが一個出来るという計算になる(全国牛乳容器環境協議会による)そうです。西東京市報で事前に告知し、市民祭り会場に牛乳パックを六枚持ってきて頂いた方にトレットペーパーを一個差し上げました。PR不足で、『そんなの知らなかった』と市民の皆様からの声を多く

頂きましたが、二〇〇名近い方がお越しいただき、三三KGの牛乳パックが集まりました。コストを考えれば、牛乳パック六枚でトレットペーパーは作れませんし、そもそもトレットペーパーブーメランは原料として牛乳パックを使用していないのですが、牛乳パックリサイクルの意識が高まって頂ければ幸いに存じます。

下表のQ1、Q2、Q3は最近特に問題になっているもので、古紙に混入する禁忌品の調査結果です。殆どの市民は認識がなく驚いていましたが、なぜこのようなのかが古紙に入り込むのか予防策を考えるべきとの意見が大半でした。

Q4の持ち去り問題も、まだまだ市民の皆様へのPRが足りないことを痛感させられました。税金がかからなくていいんじゃないかと、あの人たちの生活もあるのではとか、自分には迷惑が掛かっているわけではないなど様々な誤解があることが分かりました。持ち去り業者ではなく、正規の業者が回収すれば、その売り払い分が市に還元されます。良いものだけを抜かれることで、かえって回収コストは高くついています。

(青年部 紺野)

Q1. Tシャツプリントなどに使われる擦染紙が再生紙製品に重大な影響を及ぼす

Table with 7 columns: City, 知っていた, 知らなかった, よくわからない, 無回答, 合計, 知っていた割合. Rows include 清瀬市, 西東京市, 東大和市, 東久留米市, 小平市, 東村山市, 合計.

Q2. 点字新聞や凹凸のある高級なのし袋などに使われている感熱発泡紙が、再生紙製品に重大な影響を及ぼす

Table with 7 columns: City, 知っていた, 知らなかった, よくわからない, 無回答, 合計, 知っていた割合. Rows include 清瀬市, 西東京市, 東大和市, 東久留米市, 小平市, 東村山市, 合計.

Q3. 線香や洗剤、香水などの臭いの付いた紙が混ざると再生紙製品にも臭いが残ってしまい重大な影響を及ぼす

Table with 7 columns: City, 知っていた, 知らなかった, よくわからない, 無回答, 合計, 知っていた割合. Rows include 清瀬市, 西東京市, 東大和市, 東久留米市, 小平市, 東村山市, 合計.

Q4. 指定を受けていない業者による資源物の持ち去り行為についてどう思うか

Table with 8 columns: City, 許さぬ, 仕方ない, わからぬ, 片付けてくれば誰でもよい, 複数回答, 合計, 許さぬと思う人. Rows include 清瀬市, 西東京市, 東大和市, 東久留米市, 小平市, 東村山市, 合計.

古紙持ち去り根絶対策回収車両識別（ステッカー）

制度を開始しました。

行政回収や集団回収の回収拠点から、指定事業者以外の者が組織的・広域的に古紙を持ち去る行為が横行しています。

「持ち去りをしない・させない・受け入れない」ようにしよう
と、古紙関連業界を網羅する七団体では、これまで様々な対応策を展開してまいりましたが、この度、持ち去り車両と正規車両を差別化する回収車両識別（ステッカー）制度を昨年十一月に開始しました。現在は申請車両の審査段階で、二月頃からステッカーを貼付した車両が市中を走り始める予定です。以下に概要を説明します。

■一、古紙持ち去り問題とは

古紙持ち去り行為は、平成に入った頃から始まった行政回収の拡大とともに目立ちだし、その手口は年々巧妙化し悪質を極めていきます。当会の試算（平成二一年度）によれば都内全域で新聞古紙の約二七％が持ち去られ、その被害額は一五億円にのぼります。

このままでは、リサイクル事業への信頼を損ねかねないと、事態を重く見た東京都環境局では、古紙持ち去り問題対策協議会を発足、

持ち去り行為根絶にむけた社会的な取り組み方を一昨年（平成二三年）の六月にまとめました。

■二、車両識別（ステッカー）制度の目的・主旨

この制度は、古紙持ち去り行為を根絶させるための一つの対策として、古紙持ち去り根絶宣言をした車両を識別する（識別ステッカー貼付）制度です。古紙業界全体で取り組むことで、持ち去り車両と正規車両との差別化や持ち去り業者が回収現場に出没しづらく、なおかつ関与問屋に持ち込みづらくなる等の効果が期待されます。

■三、実施主体・対象エリア

この制度の実施者は、「古紙持ち去り問題意見交換会」で、以下の古紙関連団体を網羅した七団体からなっており、関東エリア（一都六県）で取り組んでまいります。

全国製紙原料商工組合連合会（全原連）／日本再生資源事業協同組合連合会（日資連）／関東製紙原料直納商工組合（関東商組）／関東資源回収組合連合会（関東連）／東京都製紙原料協同組合（東京協組）／東京都資源回収事業協同組合

（東資協）／社団法人東京都リサイクル事業協会（社）東リ協会

■四、貼付ステッカー

登録車両には次のような黄色地に『STOP！古紙持ち去り』と記載されたステッカーを貼付します。ステッカーには「東京都環境局と警視庁は古紙持ち去り根絶に向けて協力します」と記載されています。



■五、制度登録者の公表

本制度は申請車両に対して過去の条例違反等の履歴チェックを経た後登録、登録車両を構成団体のホームページを通じて公表することになっています。また、登録中

に条例違反等の事実が判明したら、順次登録抹消者を同様に公表する仕組みです。

【登録事業者の公表（ホームページURL）】

●全原連・関東商組

<http://kantoshoso.com/>

●日資連・関東連

<http://www.nishiren.com/>

●東京協組

<http://www.kosi-tokyo.or.jp/>

●東資協

<http://www.toushikyo.or.jp/>

●（社）東リ協会

<http://www.torikyokai.org/>

■六、おわりに

昨年の古紙持ち去り対策は、「もぐら叩き」から「もぐらそのものを根絶させる」実効性のある対策段階に入ったといえます。本年は約二〇年間に及ぶ古紙持ち去り行為に終止符をうち、全国で「古紙持ち去り根絶宣言」ができるよう邁進していく所存です。

持ち去り対策には社会を上げた対策が欠かせません。市民の皆さまには古紙持ち去り行為を見かけたら行政への車両ナンバー等の通報等のご協力をお願い申し上げます。

（古紙持ち去り問題意見交換会会長 上田雄健）

【日資連青年部復興支援活動・山形県青年部交流会に参加】

平成二四年一〇月二七日、昨年に引き続き、日本再生資源事業協同組合連合会（以下日資連）青年部は東日本大震災の復興支援活動を行った。今年山形県天童市にて開催される「第四回日本少年野球全国大会東北支部予選会」に参加し、野球少年にバッティング・A4ノートをプレゼントしようとの企画でした。

武井青年部長以下総勢九名の参加者は午前八時に「山形県総合運動公園野球場」に集合しました。会場に着いてまず、参加する少年達の礼儀の正しさに驚きました。すれ違うたびにみんなが帽子を脱ぎ、立ち止まって元気に「おはようございます」。久しくこんな丁寧な挨拶される経験がなかった私はこの時点で既に来て良かったと強く思いました。

日資連青年部メンバー・参加チーム関係者・審判団が整列し選手入場、開会宣言に続き武井部長の挨拶が行われ、各チームに贈呈品をプレゼントし、無事に開会式が終了しました。武井部長・山本副部長の始球式が始まる頃には日が射しはじめ快晴のなか、無事第一試合が始まりました。今回は一三チームの参加で行われたが、ボーイズリーグ東北支部

には二一チームの加盟があるそうです。震災の影響で参加出来なかったチームの贈呈品も大会関係者の皆様にお預かりしていただきました。野球好きの私は復興支援活動で参加・観戦していることも忘れ、少年達のプレーに一喜一憂し、本当に楽しいひと時を過ごせました。将来、今日の大会から未来のダルビッシュ選手や田中将大選手が現れることを期待します。

その日の夕方からは山形駅近くのホテルサンルート内の「魯山人」にて山形県青年部との交流会となりました。今年6月に東北六県再生資源組合連合会主催の宮城全国大会のご縁がきっかけでの開催です。山形青年部から9名もの参加があり盛大に盛り上がり素晴らし

い交流会になりました。ご尽力いただきました山形県に加賀谷青年部長に心から御礼いたします。最後に今回義援金を協力していただきました全国の組合員、青年部員の皆様に心より感謝申し上げます。今年2回目の実施となった復興支援活動ですが来年以降も継続して行っていく予定です。今後とも皆様のご支援を賜りながら日資連青年部に協力し東資協青年部も活動を行ってまいります。

今回の企画・設営に尽力いただいた岐阜県の山本部長、そして紺野関資連部長も山形滞在二時間四〇分の交流会参加お疲れ様でした。武井部長、始球式お見事でした。

土井健一郎氏(享年四九歳)を悼む



今ここに、土井健一郎君の「追悼のことば」を綴ることになるとは、誠に痛恨の極みであります。昨年夏、八月二十五日の夕方でした。土井会長の悲嘆に震えるお電話であなたの急逝の知らせを聞きしました。到底信じられるものではなく、何度も聞き返しました。

同時に、残されたご家族の悲しみは如何ばかりかと、胸が引き裂かれる思いがしました。心身ともに苦しみ病んでおられたあなたに気付かず、お見舞いの時も逃してしまったことを、ただお詫びするしかありません。あなたは、平成十四年、当組合に青年部を創設し、初代部長として、部の発展に勤めてくれました。その後(有)土井商店の代表者となられ、理事に就任して、集団回収委員長や小平市廃棄物減量等推進審議委員などを歴任されました。さらに、東京都資源回収事業協同組合の理事として新規事業検討部会長の大役も勤められました。また、長年にわたって消防団に参加するなど、地域活動にも貢献しておられました。

健一郎君、あなたが、長男優一郎君誕生の報告に来てくれた時のことを、今も鮮明に覚えています。「この子の将来を思うとき、この仕事をやっていて本当に良かったと思う。資源を守り、環境を守り、子供たちの未来を守るために、これからも、父ちゃん頑張るぞ。」と満面の笑みで誓ってくれました。社長に就任された時も、「親父が創ってくれた会社を、もつと大きくして社会にも貢献してゆきたい」と希望に満ちていました。夢半ばにして旅立たれたあなたの想いは、誰も代弁できるものではありませんが、ただ何事にも全力で頑張り過ぎて、余りにも人生を急ぎすぎたのではと、悔しさが込み上げて参ります。今、土井三幸新社長はじめ社員によって、会社はしっかりと引き継がれ、組合事業に對してしましても、滞りなく協力を頂いています。愛息健一郎君も、あなたの功績と志を誇りに、雄々しく成長してくれるものと思えます。数々の組合活動にご尽力頂き、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。安らかに永眠下さいませよう、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

東多摩再生資源化事業協同組合 理事長 紺野武郎 合掌

(福田)

行事・行動

【平成二十四年一〇月】

- 九日：東資協・理事会
- 一〇日：青年部会議
- 十一日：財務委員会
- 十一日：定例理事会
- 十三日：都・交流フェスタ
- 十六日：小平RC責任者会議
- 十八日：(社)東リ協会・理事会
- 二〇日：関資連・総会
- 二〇日：日資連・SK委員会
- 二一日：東村山市・リサイクルF
- 二一日：清瀬市・市民祭り
- 二四日：集団回収委員会
- 二四日：広報委員会
- 三〇日：東久留米市集団回収業者支援要望書提出

【十一月】

- 二日：青年部会議
- 五日：広報委員会
- 八日：東資協・理事会
- 九日：古紙持去問題意見交換会
- 一〇日：西東京市市民祭

- 二二日：定例理事会
- 二三日：税理士法人けやき 土田事務所経営セミナー
- 二四日：小平RC責任者会議
- 二五日：財務委員会
- 二六日：東村山市集団回収をたのしくすすめる会会議
- 二六日：東村山市・リサイクルF実行委員会反省会
- 二六日：回収員安全講習会
- 二七日：日資連・理事会
- 二九日：組合二〇周年記念企画委
- 二一日：(社)東リ協会・理事会
- 三〇日：研修旅行(松本光春商店)

【十二月】

- 四日：西東京市受託業者会議
- 四日：日資連チャイナシンポジウム
- 一〇日：東資協・理事会
- 十一日：財務委員会
- 十一日：定例理事会
- 一二日：小平RC責任者会議
- 一三日：広報委員会
- 一九日：(社)東リ協会・理事会
- 二〇日：広報委員会

- 二一日：日資連・SK委員会
- 二一日：青年部会議
- 二二日：組合忘年会
- 二七日：財務委員会
- 三一日：仕事納め

【平成二五年一月】

- 四日：仕事始め
- 七日：各市年始周り
- 八日：中央会・賀詞交歓会
- 八日：東資協・理事会
- 一〇日：古紙センター新年会
- 十一日：定例理事会
- 一五日：小平RC責任者会議
- 一五日：青年部会議
- 一六日：(社)東リ協会・理事会
- 一八日：古紙持去問題意見交換会
- 一九日：日資連・理事会
- 三〇日：東村山市収集業者連絡会議

編集後記

謹賀新年

昨年は、欧州の不況から始まり、

韓国、中国との領土問題で荒れた一年だった。領土問題は解決策が簡単に見つかるとは思えないが、国民同士が憎み合う状態は早急に解決してほしいものだ。特に中国に対しては、今まで以上に青年の交流や文化交流を増やして貰いたい。経済産業省主催の雑誌・雑紙の有効利用に関する調査委員会が始まった。現在、回収されている雑誌には四〇%ぐらいの雑紙が混入している。内容は、菓子箱・化粧品箱などのボール紙、ダイレクタメール、郵便物、チラシ、コピー紙など家庭にあるリサイクルでできる紙である。古紙回収率、利用率の向上とともに増え、今は板紙の原料として使われているし、MIXと言う品名で輸出もされている。国内製紙メーカーでは順調に処理されていると思われるが、最近、禁忌品の混入が非常に多くなり製品トラブルが多発しているらしい。雑誌・雑紙との分別も議論になるので、回収業界としては注視したい。

今年、四月から小型家電再資源化の促進法が施行されるが、同法がリサイクル業界や市民生活にプラスになることを願う。

吉浦